資料１

知の創造立国に向けて
－　日本学術会議のあり方に関して　－
―　産業界からの期待　－

2002 年２月 13 日
三菱電機株式会社
鈴木　浩

1．　わが国の地位の低下
　　IMD レポート
　　17 年前の予想

2．　国家安全保障　　→　コンプリヘンシブセキュリティー
　　産業競争力　　→　ビジネスリーダーシップ
　　知の創造による

3．　構造として　　三位一体
　　政府
　　－　総合科学技術会議
　　学界
　　－　日本学術会議
　　産業界
　　―　経団連
　　→　知の創造

４．　日本学術会議のあり方
　発明・発見→　草の根（無政府）→　ガバメント（政府）
　　→　ガバナンス（民主的合意）

５．　ガバナンス実現の要件
　　自己組織化、触媒としての場、分解と合成の並存

６．　日本学術会議の諮問・答申・助言機能への期待
　　米国　NAS　　eg　京都議定書の批准に関して
　　豪州　ATSE　　eg　人口シナリオ

７．　ソフト系科学技術の配分
　　ハードの知
　　ソフトの知
　　両者のバランス